

令和4年度 第1回 沖縄総合事務局開発建設部事業評価監視委員会  
議事録

1. 開催日時：令和4年7月19日（火）15：00～16：00
2. 場 所：那覇第2地方合同庁舎2号館 沖縄総合事務局 2階 災害対策室
3. 出席者：○委 員  
伊東 和美 沖縄経済同友会常任幹事（りゅうぎん総合研究所社長）  
富山 潤 琉球大学工学部教授【委員長】  
仲地 健 沖縄国際大学産業情報学部教授  
○沖縄総合事務局  
畠中次長、坂井開発建設部長ほか

4. 議事要旨：

【再評価事業審議】

●一般国道506号 小禄道路（那覇空港自動車道）

・対応方針（原案）に対して審議を行った結果、「事業を継続」で了承された。

【審議内容】

- 委 員：小禄道路の整備に伴い、並行する国道331号の渋滞損失時間が9割減少すると試算しているが、近隣の商業施設及び物流施設、将来の開発予定施設を見込んだ上で、試算しているのか伺いたい。
- 事 務 局：交通量については、令和22年度の推計値を用いて試算しており、将来の開発予定施設等も見込んだ数値となっている。また、小禄道路の整備によって、北部地域、沖縄自動車道に接続する道路へ向かう交通が多いことから交通の分散が図られ、並行する国道331号の交通が減少すると考えている。
- 委 員：重金属が含まれるトンネル掘削残土の処理方法の変更について、量による変更なのかそれ以外の理由があるのか伺いたい。
- 事 務 局：当初は、掘削土砂の半分程度に重金属が含まれると想定しており、県内の処分施設において処理できると計画していた。掘削を進めていく中で、掘削土砂全てに重金属が含まれており、県内の処理施設能力を大きく超えてしまったことから、県外への処理施設に変更している。
- 委 員：重金属が含まれる土砂はこれからも出る予定なのか伺いたい。
- 事 務 局：トンネルの掘削は完了しており、搬出のみとなっている。自然由来の重金属が含まれる土砂は別の事業でも今後出る可能性があることから、対応を検討していきたいと考えている。
- 委 員：小禄道路の周辺はレンタカー会社の集積地が多数あることから、瀬長付近で小禄道路に乗り降りできる場所を計画しているのか伺いたい。
- 事 務 局：瀬長IC（仮称）、豊見城・名嘉地IC（仮称）が計画されているため、瀬長付近から小禄道路への乗り降りは可能。
- 委 員：費用便益比について前回評価が1.3、今回評価が1.1となっているが、1.1という数値は道路事業として高い数値なのか教えて頂きたい。
- 事 務 局：構造物が少ない事業については、費用便益比が高くなる傾向がある。前回評価と比較すると、コストが高くなっていることから費用便益比は下がる結果となった。1.1という数値は費用便益比としては低い値と認識しているが、3便益では表せない空港からのミッシングリンク等の事業効果もあることから、道路の必要性の観点から考えると整備効果が高い道路だと考えている。

- 委員 長：残事業の費用便益比が 3.8 となっているが、残事業の費用便益比を明示している理由を伺いたい。
- 事務局：全体事業費の費用便益比が事業継続の判断の基準となるが、今後事業を進めていく中で、残事業の効果がどれくらいあるのかを明示している。
- 委員 長：事業費増の理由について、事業を進めていく中で判明した理由による変更は理解できるが、米軍基地施設の移設に関する変更は人工物の移設であることから計画段階から予算を見込むことができたのではないか。
- 事務局：事業化段階においては、詳細な調査等ができないため、詳細な費用を計上することは難しい。ある程度事業を進めていく中で、関係機関との協議や調整で判明していくことがある。
- 委員 長：審議の結果、事業継続ということで判定したい。よろしいか。
- 各 委 員：異議なし。